

活用場面

AI・C2

「見方・考え方」を働かせることを通じて より質の高い学びにつなげる授業実践

活用したソフトや機能：協働学習支援ツール（一覧表示）の活用

学 年：中学校第1学年 教科：技術・家庭科（家庭分野）
題 材 名：中学生に必要な栄養素を満たす食事

○ 本時について(6/8)



(1)ねらい

・自分の献立の問題を解決するために、アドバイスする活動を通して、栄養バランスの整った献立の作り方の具体的な方法を理解し中学生に必要な栄養を満たした1日分の献立を完成させることができる。

(2)評価規準

・中学生に必要な栄養を満たす1日分の献立を作成している【思考・判断・表現】

(3)学習展開

過程	学習活動	ICT活用場面
導入	1 前時の学習内容と本時の資料を提示し、本時の授業の流れについて児童の理解と関心を高める。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;">1日に必要な栄養を満たす献立を完成させよう</div>	・導入で前時との関連付け、対比できる資料を大型提示装置に示しながら本時の見通しをもたせる。 
展開	2 各自、献立を見直し作成する(個人追究) ・自分が設定した献立で使用する材料の量から、得られる栄養素量を計算して、必要な栄養素量と比較する。 3 献立の過不足のある食品群を班で交流する(班追究) ・仲間と交流しどんな食品を摂るとよいかなど、食品群別摂取量を満たす方法を全員で考える。 4 班員からの意見を元に、献立を改善する。	・仲間の考えた献立に対して、栄養素量と比較しながら、よりよい献立になるように使用する材料の種類や量についてアドバイスをする。 
終末	5 学習のまとめ ・〇〇さんの意見からカレーにチーズをのせると2群がとれる。 ・旬の野菜を使っておいしく安く栄養価が高く献立をつくれた。	

活用の際のワンポイント！

- 資料をタブレット端末で分類・比較して、栄養素量だけでなく、摂取のしやすさや旬の食材をしようして献立を作成している生徒の姿の画面を共有することができます。また、「〇〇さんはなぜその食材を選んだのですか？」など意図的指名によって、働かせている見方・考え方を広げることができます。
- ICTを活用することで、作成した自分の献立の数値を示しながら周りとは検討することができます。

実践提供校：土岐市立泉中学校